

## 里耶秦簡 9-1078 簡と 8-2429 簡の綴合に関する覚書

石原遼平（AA 研共同研究員、明治大学研究推進員）

### 1. 現行釋文

『里耶秦簡(壹)』および『里耶秦簡(貳)』で公開された 8-2429 簡および 9-1078 簡はいずれも労役を記録した「作徒簿」である。

・8-2429 については『里耶秦簡牘校釈(一)』<sup>1</sup>を何有祖「読里耶秦簡札記(五)」<sup>2</sup>が修正し、以下のように釈読されている。

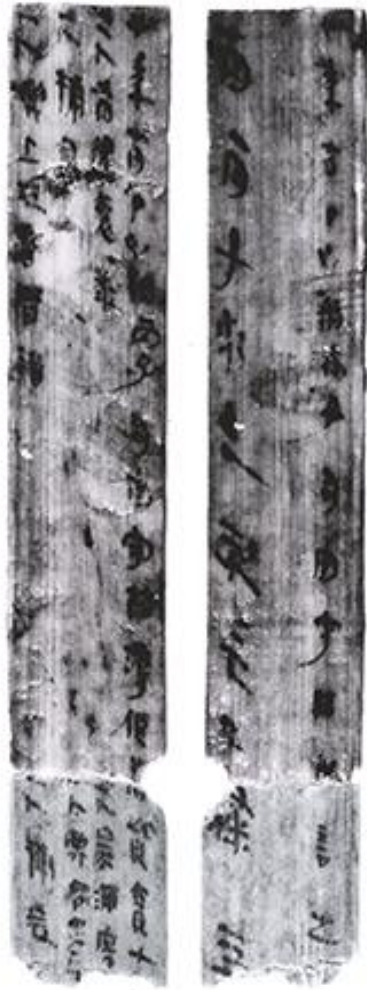
- ☑言之☑
- ☑【隸妾】☑ (8-2429 正)
- ☑□賞責七☑
- ☑□人爲蒲席☑
- ☑□人與令史上【計】☑<sup>3</sup>
- ☑□人捕爰☑ (8-2429 背)

・9-1078 については『里耶秦簡牘校釈(二)』<sup>4</sup>の釈文を示す。なお、校釈は「原釈文と図版は正背が逆である」と指摘し、正背を原釈文および図版とは逆にしているが、ここでは主に図版を問題にするため、混乱を避けるため正背は図版に準拠する。

- 卅年七月丁巳朔丙子、司空守茲敢☑
- 七月丙子水十一刻刻下二☑ (9-1078 正)
- 卅年七月丁巳朔丙子、司空守茲、薄作□☑
- 二人有逮：襄、敬。☑
- 一人捕鳥。☑
- 一人與上攻者偕：諸。☑ (9-1078 背)

### 2. 綴合後図版

下図に示すように、9-1078 と 8-2429 は断面の形状、簡の幅が合い、内容も表面、裏面ともによく合う。



左図版：9-1078 背+8-2429 背 右図版：9-1078 正+8-2429 正

### 3. 釈文校訂

9-1078 背+8-2429 背の1行目16文字目は綴合によって復元されるが、簡の欠けた部分の状態が悪く図版のみから釈読するのは困難である。ただし、前後の文脈から「居」であることが推測される。



1行目16文字目



居(⑧1327+0787)



居(⑧1831)



一人捕鳥。 一人與令史□□  
一人與上攻（功）者偕：諸。 一人捕爰：□ （9-1078 背+8-2429 背）  
卅（三十）年七月丁巳朔丙子，司空守茲敢言之。□  
七月丙子水十一刻=下二，隸妾□ （9-1078 正+8-2429 正）

また類例から以下のように内容を補って読み下すことができる。

三十年七月丁巳朔丙子(二十日)、司空守の茲が薄。居貲責を作せしむること七人。  
二人は逮有り。褒、敬。  
一人は鳥を捕う。  
一人は上功者と偕す。諸。  
一人は蒲の席を爲す。  
一人は令史□と……。  
一人は爰を捕う。 （9-1078 背+8-2429 背）  
三十年七月丁巳朔丙子(二十日)、司空守の茲、敢えて之れを言う。【寫して上す。敢えて之れを言う。】  
七月丙子(二十日)、水十一刻、刻下ること二、隸妾【の某、以て來る】 （9-1078 正+8-2429 正）

附記：小文は、アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「秦代地方県庁の日常に肉薄する——中国古代簡牘の横断領域的研究（4）」における議論を踏まえているほか、科学研究費（基盤研究B、課題番号16H03487）「最新史料の見る秦・漢法制の变革と帝制中国の成立」の研究成果を含む。

編集者注記：2021年3月2日入稿

## 注

<sup>1</sup> 陳偉主編、何有祖・魯家亮・凡国棟撰著『里耶秦簡牘校釈(一)』武漢大学出版社、2012年。

<sup>2</sup> 何有祖「読里耶秦簡札記(五)」簡帛網  
([http://www.bsm.org.cn/show\\_article.php?id=2273](http://www.bsm.org.cn/show_article.php?id=2273))、2015年7月15日発布。

<sup>3</sup> 「上」字は原釈文および『校釈(一)』では未釈読。前掲注2の何有祖札記は小さく二文字書かれていると考え「上【計】」と釈読する。

<sup>4</sup> 陳偉主編、魯家亮・何有祖・凡国棟撰著『里耶秦簡牘校釈(二)』武漢大学出版社、2018年。